

平成 22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492400021	事業の開始年月日	平成18年9月1日	
		指定年月日	平成18年9月1日	
法人名	株式会社へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん小和田」			
所在地	(〒253-0012) 茅ヶ崎市小和田3-3-25			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果 市町村受理日		
			ユニット数	1ユニット

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様一人ひとりの心と体の安心を第一に考え、やすらぎの空間をご入居者とケアスタッフでつくりあげていきます。それが、「へいあん小和田」の目指すグループホームです。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月14日	評価機関 評価決定日	平成24年6月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所はJR辻堂駅西口から徒歩10分、国道一号線にほど近い住宅地にある。国道沿いには、ハンバーガーチェーンやドラッグストア、スーパーが並び、利用者が日々の買い物に出かけることができる。1階に通所介護事業所、2階にこのグループホームがある。建物は明るく、利用者は日中、リビングでゆったりと過ごしている。
【理念を意識した支援】 職員と毎朝の申し送りや、全体ミーティングの際に3項目の理念を唱和し、それに基づいた支援をすることの大切さを浸透させている。管理者は職員が毎日の働きの中で、意見が言いやすいように配慮し、出された提案はできるだけ実現するように努めている。職員もそれを受けて、利用者が自由に生活が出来るように、連携して支援している。一例として、遠出が出来なくなった利用者へ何か楽しみを提供できないかを検討し、畑作りを始めた。農作業の経験がある利用者へ植え付けを教えてもらったり、皆で草取りをしたり、収穫物を食卓に上げたりして、皆で楽しんでいる。このことを通じて、家族との連携強化にもつながっている。また、職員のまとまりも良くなり、チームとして働けるようになっている。
【防災対策の充実】 昨年の震災を契機に法人の指導のもとに、水・食料などの備蓄に加え発電機やスピーカーを用意し、使用訓練を実施している。また、非常時に職員が事業所に来るまでの時間を調べるなど、いざという時の準備をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん小和田」
ユニット名	グループホーム「へいあん小和田」

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと共に創立時に掲げた理念を毎朝唱和。 理念に基づくケアの実践を日々心にかけている。	法人理念をもとに、開所時より、「お客様に尊敬の念をもって接します」など事業所独自の理念を作成している。共に掲示し、朝礼時やミーティングの折に唱和して確認している。管理者は常に理念に立ち返えることを指導している。職員は常に念頭に置き、利用者に寄り添い心安らかに暮らしていけるように支援している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事等に積極的に出向き、地域の住民の一人として参加意識を持っている。	自治会に加入し盆踊りなどの行事に参加したり、日ごろの散歩の時や買い物に出かけた折り、また庭先の畑で作業するときなどに地域の方たちと挨拶を交わしている。クリスマス会など事業所の行事には地域のボランティアの方も参加し、一緒に楽しんでいる。1階のデイサービスに日本舞踊やフラダンスのボランティアの来所があり、その折りに、交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へかかってくる電話相談や問合せに懇切丁寧に対応し、認知症の理解の一端を担っていると自負している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期は、1月または3月開催の推進会議でこのテーマを取り上げることが予定とする。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催する方針で、今年度はこれまで年3回開催している。自治会長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター担当者、家族の参加で行っている。事業所の現状報告を行った後、その時の世情に合わせてテーマを決めて意見交換を行っている。「ボランティアセンターに相談してみてもどうか」という提案があり、依頼したところ、アロマセラピーなどのボランティアの方が来所するようになった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、待機情報を通じて、また運営推進会議への出席を通して連携を密にとっている。	運営推進会議に市の担当者の出席があることや事故報告、緊急対応、要介護認定申請、待機情報など関連事務を通じて市と連携している。また、市の地域密着型サービス担当部署には相談をし、アドバイスを受ける関係が出来ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待に対するコンプライアンスルールを掲示し、これを実践している。	法人及び事業所で、身体拘束や虐待に対するマニュアルをもとに研修を行ない職員に周知させている。特に権利擁護を重視して、利用者の尊厳を守ることなどを徹底し、拘束をしないケアを実践している。事業所の入り口はチャームを付け施錠していない。建物の主玄関も開けている。防犯カメラを設置して対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は、虐待・身体拘束予防についての内部研修計画を立案し、これを実施している。 * 今期は、これからの予定（資料等はすでに作成済）		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記同様。 上記、虐待・身体拘束予防の話しに含め、高齢者の権利擁護研修を開催する予定。 * 研修資料作成済み		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、十分な説明を行い、疑問・不安等を解消している。 また、契約書改定、重要事項説明書改定の際は、家族会等を開催し、説明を行い、同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を開催。その際の要望等に迅速に対応している。 (平成22年12月19日実施)	家族には来訪時や電話した際、介護計画の説明時、また行事の折りに随時行なう家族会などで、意見を聞いている。介護保険の改正に伴う料金変更について相談に応じている。利用者個々の要望、相談は管理者、リーダーおよびサブリーダーが対応している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1度のスタッフ面談、及び月に1回の業務会議において、職員の声を引き出し運営に反映させている。	職員が意見や提案を自ら行い、実践出来るように取り組んでいる。利用者を楽しい生活をしてもらえるよう、管理者と職員が考え、畑作りを研究テーマに上げた。利用者に苗の植え方を教えてもらったり、草取りをしたりして、毎日、作物が実のを見ながら、収穫を楽しむことが出来た。また、疎遠になっていた家族が手伝いに来たり、近隣の人が立ち寄ったり、職員の関係がよくなるなどの効果もあった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記同様、半年度のスタッフ面談等で、業務評価を行い、左記の内容についてスタッフ評価、意識付け等を行っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個別に研修計画を設け、年間の内部研修計画、外部研修を通じて教育を実施。また、新人に対するOJTも日誌やチェックシート等の活用により、着実に実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に所属し、研修等を通じて左記の取組みを実施。 また、グループ内の4施設において毎月1度のミーティングを通じた交流、情報交換、業務改善会議を実施。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を（部分的に）活用し、左記の内容をアセスメントに反映させている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に、管理者とケアマネがインテークを行い、利用者支援の視点で相談対応、情報提供等に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	左記の視点に立って、ケア方針を作成（ケアプランに反映）、援助を実践している。 *ユニットを家族と捉え、「家族旅行に行きたい」との思いから「温泉旅行」を今年度実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>「家族との絆を大切にする」を理念に盛込んでいるとおり、これを意識し実践している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>居室に馴染みの物を置いてもらったり、入居でそれまでの人間関係が途切れないよう配慮。 リロケーションダメージの緩和に努めている。</p>	<p>利用者の以前の勤務先の知人が訪れた時はお茶を出し、居室またはリビングで歓談してもらっている。お寺や馴染みの美容院に職員が付き添って行っている。家族の来訪が少ないので、面会に来てくれるように声掛けをしている。</p>	<p>家族との縁が薄い人など、利用者にはいろいろの事情がありますが、少しでも家族や友人など馴染みの方の訪問が多くなるように取り組むことを期待します。</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の人間関係はケアの多い要素であり、外出や日常の支援において十分配慮している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所し、死去されたご利用者様家族が来訪され、スタッフがご家族のお話を傾聴したり、ご家族が入居者様と歓談したりといった関係が継続している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>上記同様、センター方式を一部活用し、左記内容のアセスメントを実施、ケアに反映させている。</p>	<p>入居時のアセスメントで利用者の思いの把握に努めている。日常生活の中での会話から、また意思表示のしにくい人については、言葉や動作から思いを汲み取り、「心身の情報シート」に書き入れ、職員間で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、センター方式を一部活用し、左記内容のアセスメントを実施、ケアに反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様、センター方式を一部活用し、左記内容のアセスメントを実施、ケアに反映させている。 毎朝申し送り時に、必要があれば小カンファレンスを実施等。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフより、毎月情報シートを提出してもらい、モニタリング記録と合わせて、ケアプラン作成に活用している。	利用者ごとに担当者制にしている。職員は毎月、担当利用者の「情報報告」シートを作り、ミーティング（全体会議）で他の職員からも意見を得ている。利用者ごとに、介護計画のサービス内容から3項目を抜粋し、「個別サービス記録」（ケア記録）に番号を付け転記している。これをもとにケアマネジャーが毎月、モニタリングを行ない、目標の達成度を評価し、必要に応じて計画を追加している。介護計画は6カ月ごとに見直し、医師の指示や家族の思いを反映させて更新している。また状態変化時には、その都度、見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別ごとのサービス提供日誌を記載し、左記内容に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループの社内資源も活用し、左記の内容に取り組んでいる。 基本的には、自宅にいらっしゃる時と同じようにニーズに対応できることを旨としている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別の外出などを毎日実施し、左記内容に取り組んでいる。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームとして協力連携病院を確保しているが、これにとらわれず、病院受診は、ご本人ご家族の要望に対応できている。	以前からのかかりつけ医を受診する利用者には原則として家族が対応するが、利用者の毎日の生活の状態を伝えるため職員が同行することも多い。 協力医の往診が2週に1回ある。家族に受診内容を伝えるとともに、受診ノートにも記録をしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が不在であるが、グループ内の看護師と連携を取り、医療情報と観察指示、感染予防対策等において連携を密にとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病棟に出向き、担当ナースから病状把握や退院支援に対応している。 また、入院加療において必要な生活情報、身体情報を提供している（ご家族を得て行っている）。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り指針を作成し、これに基づき、左記に対応している。</p>	<p>終末期にはできるだけ長く事業所で暮らせるように支援する方針で、医師、家族との話し合いにより対応することになっている。まだ看取りを行った例はないが、亡くなる1週間前まで事業所で生活したケースがある。</p>	<p>すでに看取り方針は作成されています。適切な重度化対応ができるように、勉強会や研修を行ない、職員のレベルの向上を図られることを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>採用時研修において、救急対応、心肺蘇生等のスキルが身につくよう研修メニューに取り入れている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>基本的には、年に2回避難訓練等を実施。</p>	<p>年2回、避難訓練を実施している。うち1回は防災業者の指導を受け、消火訓練を行った。法人が震災を教訓として防災に力を入れており、充電式バッテリーの使い方や地域の方への連絡方法などの訓練をしている。また、職員が自宅から事業所に駆けつける所要時間を実際に歩いて実測し、3日分の食料、水、充電機、簡易トイレなどを備えている。</p>	<p>事業所内では充実した訓練を行っています。今後は、地域の人達にも訓練に参加してもらうなど、地域との連携体制を築いていくことを期待します。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>コンプライアンスルールを掲げ（掲示し）、左記内容をスタッフに周知し、これを実践している。</p>	<p>職員の入職時に研修を行なって利用者のプライバシー尊重を周知させている。特に身体拘束や虐待の防止、意思決定が出来ない利用者の権利擁護について徹底し、人格の尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。</p> <p>個人情報を含む重要書類は事務室の施錠できる戸棚に保管している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの実践において「話しを傾聴すること」「待つこと」を旨とし、左記内容が実践できるよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上。 日々の日課を決まったものにするのではなく、その日のその方状態、ペースに合わせて過ごしてもらえよう臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの服を用意してもらい、その方の普段着をそれぞれに演習してもらっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けを手伝ってもらい、スタッフとお客様が共同作業で食事作りを行っている。	食材とメニューは専門業者に委託している。調理は職員が行なう。利用者は下ごしらえや盛り付け、食器洗いを手伝っている。職員2名も検食としてテーブルに着き、利用者には話しかけたり、介助しながらゆっくり食事をしている。食後に口腔ケアを行なっている。外食やケーキバイキング、出前などの機会もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食ごとに個別に摂取量を記録し、これを観察し、健康管理に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じた口腔ケアを実施。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助が必要になったり、紙パンツ等が必要になった方も、習慣的にトイレに座ってもらい、自力排泄ができるようケアしている。	排泄チェック表により、把握した利用者ごとの排泄パターンや、状態を見て利用者それぞれに合わせて声掛けや誘導をしている。食事前、外出前など、定期的な誘導も行なっている。夜間も、時間を見ながら誘導している。日中に、パットを自分で使えるように、トイレにパットを用意するなど、自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝、スキムミルクとレーズン、フルーツ入りのヨーグルトを出している。その他個別に排便状況を観察し、やむを得ない場合は主治医に相談し、緩下剤を処方してもらっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夕食前に入浴時間を設定し、個別に誘導。 入浴を強要せず、無理強いせず、安心して気持ちよく入浴できるよう個別に創意工夫を行っている。	入浴時間はおおむね夕方の16時～18時で、1日に3、4人が入っている。入浴表をつけ、2、3日に1回は入るようにしている。入浴しながらない方に対しては、状態を見て職員が声掛けを工夫して、入浴を勧めている。清拭や足湯で対応することもある。菖蒲湯やゆず湯にしたり入浴剤を使って気持ちよく入ってもらえるように配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れたら居室にて横になってもらう、眠れない時は、リビングで好きなだけ過ごしてもらう等、臨機応変に対応しているが、日常生活の休息リズムにも個別に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬処方の説明書を個別ファイルに添付し、服薬情報をスタッフで共有している。</p> <p>また、変薬の際は、必ず申し送りノートに記載し、直ちに情報共有を行っている。</p> <p>症状変化についても個別サービス記録に記載。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>センター方式を一部活用し、左記内容を取り込んだケアプラン作成に努めている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日、個別に外出支援を実施（散歩、買い物等）。</p> <p>また、温泉旅行や外食イベント等も毎月実施し、グループ単位で外出支援を行っている。</p>	<p>毎日、散歩やスーパーへの買い物に出かけるようにしている。土、日曜日には車で遠くのスーパーまで買い物に行くこともある。畑に出かけることも日課になっている。アジサイや桜のお花見に寒川神社に出かけたり、近くのお寺、イチゴ狩りにも出かけている。車椅子の人も一緒に外出している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族に相談しながら、一部のお客様において（能力を勘案し）実施。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>左記については、自由に積極的に行ってもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物などを工夫し、心地よく楽しく過ごせるよう配慮を行っている。	共用空間は空調や加湿器で温度、湿度を調節している。リビングは、分けて置かれたテーブルやソファで個々に食事や作業をしたり、体を休めたり出来るようになっている。エレベーター前の入り口にはお雛様を、リビングのテーブルには水仙を飾るなど、季節が感じられるようにしている。壁には利用者の作品が飾られている。毎夜、清掃を行っており、清潔に保っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、左記について可能な限り配慮を行っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでもらい、居室については制約をなくし自由に使ってもらっている。	各居室にはクローゼット、エアコンを備え付けてある。利用者はタンス、テーブル、照明器具、縫いぐるみ、家族の写真など好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせる住まいにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目立つように「洗濯場」等の掲示をしたりして、自らの役割を演習しやすいよう配慮を行っている。		